

令和 7 年（2025 年）3 月 19 日（水）10:00～11:30

於：熊本博物館 講堂

出席者

【委員】

松下委員（会長）、鈴木委員（副会長）、鶴嶋委員、田島委員、池上委員、早田委員、森委員、菊川委員

【事務局】

的場館長ほか博物館職員

〈次 第〉

- 1 開会
- 2 議事
 - (1) 令和 7 年度（2025 年度）事業計画について
 - (2) その他
- 3 閉会

< 議事 >

【令和 7 年度（2025 年度）事業計画について】

会 長：それでは、令和 7 年度事業計画について事務局よりご説明をお願いいたします。

館 長：それでは早速事業計画を説明させていただきます。事業計画については、ボリュームが少しございますので、前半と後半に分けて説明させていただきたいと思います。質疑も前半後半という形で行わせていただければと思います。それでは、担当の方からご説明差し上げます。

— 学芸班主幹より令和 7 年度（2025 年度）事業計画（前半）について説明 —

会 長：ありがとうございました。ただいまのご報告について、何かご質問、ご意見ございませんでしょうか。挙手をお願いできればと思います。

鶴嶋委員：5 ページのですね、中段あたりにある「GW 大型連休はくまはくへ」へのイベントの説明で、「期間中に多様なイベントを開催し」とあります、これは具体的にはどのような内容でしょうか。

事 務 局：例えば、この博物館の周辺での観察会であるとか、巴形銅器の作成の体験です。あとはミョウバンを使って結晶が大きく宝石のような様子について原理をご説明しながら体験できる楽しいイベントを予定しております。

会 長：ほかにありますか。

森 委 員：熊本県博物館ネットワークセンターの森です。本年度ですけれども、同田貫展という形で

島原城も含め4館で連携されており、島原には行けませんでした。熊本博物館、島田美術館、玉名に行きました。そういった連携事業について今年度は開催する予定はあるのでしょうか。

事務局：現在のところ予定はありませんが、当館発信ではなく、もしかしたら、他館からの発信で、何かしようということにはなるかもしれません。熊本博物館としましても、やはり連携は大事だととらえていますので、何かしらよその館と連携させていただければと考えております。先日も熊本県博物館ネットワークセンター様からお声掛けいただいて、ネットワークセンター様と玉名のころピア様と当館で連携してリレー講演会を行いました。他館からの声がけがあれば、ぜひ協力したいと考えております。

館長：1点補足ですけれども、八雲関連の展覧会に関しましては、他館と連携をすることになるかもわかりません。他館との連携はとても良い取り組みだと思っていますので、機会があれば、どんどん連携する方向で取り組んでいきたいと考えております。

会長：はい、ありがとうございました。

池上委員：御船町恐竜博物館の池上です。特別展・企画展関連ですが、先ほどご紹介がありました冬期特別展『ヘルンさん、熊本暮らし』について、NHKの番組とのリンクもあるということですが、あまりまだ言えないかもしれませんが、何かメディア企業さんと連携するような計画や方針などがあるのかということをお教えいただければと思います。また、企画展・共催展まで含めると、非常に多くの展覧会を実施されておられますが、何人ぐらいの学芸員さんで、どのぐらいの期間をかけて準備されているのか。例えば準備期間とそれから実際の実施年度が1人の学芸員さんが重なっているとか、そういう状況についても教えていただければと思います。

館長：ご質問ありがとうございます。まず私の方からは、冬の特別展の八雲関連の展覧会についてどこかメディアと一緒に組まれるんですかというお尋ねだったかと思います。まだ今、このところは未定でございます。これからいくつかお声掛けをしながら、発信力の強化というのもありますので、そういった意味で池上委員ご指摘の通り、そういったメディアさんと組ませていただくことも考えながら進めていこうかと考えております。今のところはまだ決まっておりません。

事務局：展示の準備期間と学芸員の数ですが、学芸員が現在8人で行っておりまして、準備期間は展示の規模によって期間は様々ですが、早いところでは、2年、3年前から準備を始めています。当然1人がいくつも抱えたりしていることもありますので、複数の展示のことを同時にやらなければいけないという状況も生じているところです。

会長：ありがとうございました。

早田委員：熊本県立美術館の早田です。来年度もとても魅力的な展覧会をたくさん企画されてということで本当にいつも大変かなというふうに思っております。今、池上委員もおっしゃいましたが、この特別展っていうのはうちの美術館の場合は、マスコミさんとか実行委員会を組んでちょっと予算規模が大きいものは特別展にして、それ以外の割と自分の館でできるものが企画展というような位置付けにしていますが、いかがでしょうか。もう1つは、夏季特別『江戸の遊び絵尽くし』の浮世絵の話で、今、NHKの大河ドラ

マで『べらぼう』も放映されており、全国的にも非常に浮世絵がブームになるということで非常にタイムリーな企画かなと思っております。これは巡回展となると思いますが、今回の展覧会において、熊本の特徴を持たせたような、例えば熊本にある浮世絵を出品するとか、熊本の浮世絵の文化を紹介するとか、何かそういう地域性を持たせた内容をご検討をされているのであれば、教えていただければと思います。以上2点お願いいたします。

事務局：まず、特別展と企画展とのすみ分けというご質問ですが、県立美術館さんと同様です。実行委員会等を組織して、来館者から入館料と別に特別展観覧料をいただくものを特別展というふうに位置付けております。後半につきましては、担当から説明させていただきます。

事務局：『江戸の遊び絵尽くし』展を担当する木山です。今回は巡回展ということで、全国回ってきてこれが九州初開催となるパッケージ展です。当館が最後の巡回先となります。せっかく当館で開催しますので、同時開催という形で、館蔵の浮世絵コレクションもいくつか紹介したいと考えているところです。

会長：ありがとうございました。

鶴嶋委員：ご質問です。大変多くの事業をされていて恐縮ではあるんですが、今年は戦後80年ということで、よそでもいろんな事業をやっているし、政府とかそういうところでも特別な行事があると思います。この戦後80年に関して、もう100年とか150年とか多分継続できないと思うのですが、最後の方たちが生きておられて80歳過ぎになられます。そこで、このような節目のときには10年ごとぐらいには何かこう戦争に関わる企画を少しこう入れて欲しいなというふうに思いました。他館にて、このような企画をおやりになるところも今年はありますので、熊本県で唯一の総合博物館でぜひそういう企画を、やれる余裕があれば何かやってほしい、企画してほしいなと思いました。

館長：ご意見ありがとうございました。ご要望いただきましてありがとうございます。熊本博物館だけというよりは、熊本市全体としてこの戦後をどう取り組んでいこうかという動きもございますので、我々ではできるような部分があれば、我々がそれを担っていてもいいのかなとは思っているところではございます。ただ、今、事業計画の中では、企画展として予定はございませんが、市全体の中での役割っていうところが出てくれば、随時取り組んでいければと思っております。

会長：急遽、今からとかいうのはできるものでしょうか。例えば、年度内に。

館長：難しくはございますけれども、そういう状況になれば、工夫してまいりたいと思います。

会長：これに関して、県のネットワークセンターは何か予定されてますか。

森委員：今年度はですね、日中戦争に関わる従軍に関して3人の方をテーマにしたんですけども、来年度につきましては特に準備はしておりませんが、やはり、先ほどの場館長が言われたように、市全体、県全体という形の取り組みが、何らか多分用意されているというふうに思っております。

田島委員：熊本市議会の田島と申します。神風連の資料館がなくなりまして、もともと熊本の方も

知らない方がおられて、あそこがなくなったことで逆に興味を持たれた方もいると思います。今その資料というのがどうなっているのかということと、できればこちらで展示ができればさらに熊本の方も歴史を学ぶ機会であったり、見てない方も見れるということが実現できると思います。そのあたりについて教えてください。

館 長：昨年、残念ながら神風連の資料館が閉館になりまして、そのタイミングで我々のところに資料を寄贈いただくことになりました。例えば、神風連参加者の遺品なども含めて、貴重な一次資料をご寄贈いただきました。この資料につきましては、田島委員がおっしゃるように、今後、どういうふうに活用していこうかというところを今検討しているところではございます。西南の役関連資料も当館所蔵はしておりますが、神風連資料について新たな資料としてご寄贈いただいたものをきちんと調査をして、これまでわからなかったようなことも調査の中で新たな発見として出てくるかもしれませんので、そういったものに光を当てながら、どういうふうに展示の方に活用していったらいいのかなど、これから取り組んでまいります。そういったものが整理できましたら、再来年、西南戦争 150 年となりますので、そういった節目もございますので、活用の機会が出てくるのではないかとこのように考えているところでございます。以上でございます。

鈴木委員：熊本大学の鈴木です。小泉八雲関連について私から 1 つちょっと思い当たったことがあります。今度いろいろな形で、いろんな館で朝ドラと連携する形で、企画が熊本でも行われると思いますが、熊本市と小泉八雲との関わりということではいますと、今まで何度か展示のときに再現されていると思います。地蔵祭りで子供たちが作ったトンボを八雲が非常に称賛しており、熊本の生人形の文化だとかそういった造り物の文化に触れるという大きな機会になっています。作り物のトンボを普段見ることができませんので、もと坪井にあったと思いますが、それを再現するのは難しいと思いますけれども、八雲に関連して、そういった造りものを紹介する部分をもう検討されてるかもしれませんけれど、ゆかりの文化ということでぜひ取り上げていただけたらというふうに思います。

館 長：ご意見ありがとうございます。ご意見のとおり、我々も少しその部分は考えていきたいなと思います。

会 長：展示会のタイトルに「ヘルンさん」とありますが、この呼び名は熊本でどうなのでしょう。結構一般的なののでしょうか。松江市は、ヘルンさんと松江城で大きく 2 つのテーマでまちおこしを行っています。熊本では、これまで「ヘルン」という言葉でやってきたのか、どなたかご存じの方おられません。今まで「ハーン」でずっとやってきただろうと思うのですが。そのあたりをちょっと確認していただければなと思います。

館 長：すいません。私もちょっと専門家ではありませんが、確かセツは「ヘルンさん」と呼んでいたということで、熊本でも「ヘルン」と呼んでいたと思います。そのあと、熊本を出て、神戸に行ってから、たしか八雲に改名されたと思います。

会 長：ほかにございますか。私から、いくつかございます。この遺跡発掘展について、毎年熊本市内で発掘されたものを対象にしているのでしょうか。

事務局：熊本市内で発掘されたものです。

会 長：このあたり県は特に何かございますか。その年に発掘されて、何か成果を公開する機会

を県ではお持ちですか。

森 委 員：考古学分野というのは、主に装飾古墳館が担当しているので、そのあたりの状況は把握できてないというのが現状です。

事 務 局：補足ですけど、かつては全国巡回のものもあって、当館でも熊本で発掘されたものに加えて、よその自治体で発掘されたものが展示されたこともあります。このところ熊本市内で発掘されたものが展示されている状況です。

会 長：今、熊本城管理事務所が建設中ですが、この管理事務所と熊本博物館との関係は、市組織的にはどのような関係になるのでしょうか。

館 長：熊本城は熊本城総合事務所、市民文化局という本庁組織、市長部局となります。当館は教育委員会事務局に属しており、組織上はそのような関係になっております。

会 長：何か交流はありますか。人事交流はあってありますが、例えば情報の共有みたいなものは、ございますか。

館 長：日常的にございます。この博物館の向かいに細川刑部邸があって、地震で大分損傷し、今年から復旧事業が始まっているところですが、刑部邸の中にある貴重な資料を工事中に一旦避難させる必要があるため、当館でその資料一旦お預かりしているといったような、事業の連携等もございます。

会 長：では、後半の部分について事務局から説明をお願いします。

— 学芸班主幹より令和7年度（2025年度）事業計画（後半）について説明 —

会 長：はい。また同じように、ご意見・ご質問があればどなたかお願いします。

鶴嶋委員：塚原歴史民俗資料館で開催されます昆虫の企画展について、お盆の4日間の開催ですが、これは生体を展示するため、そういう制約があって短いのでしょうか。

事 務 局：昆虫に配慮したという点もありますが、この期間は研修室という一番大きな部屋を使いますが、何かしらの講座の開催が予定されていますので、2週間とかいうスパンでの開催は難しく、昨年も同様な期間で行ったところです。

鶴嶋委員：生体の虫を提供されるのはお一人ですか。

事 務 局：生体の虫を提供していただいている方はお一人です。熊本市内の方であり、熊本市の職員でもあり、昆虫に関しては全くの趣味でやっておられまして、この方が大事な自分の飼育している虫をたくさん提供していただき、子どもたちが触れることができる展示という形で実施しております。そこに当館の学芸員も行き、2人で対応や解説をしております。

会 長：その方は外国に行かれ採集されているのでしょうか。

事 務 局：外国に行かれたりもしますが、今、日本に輸入・販売されておりますので、購入しご自分で繁殖を行っておられます。展示期間中は、2人で来館者に対して、流れの中でトークショーを行ったりしております。また来年度も同様の内容を実施する予定にしております。

鶴嶋委員：子どもさんが大変喜ぶ企画でもあるので、もう少し長い期間で実施していただけたらと

思います。

事務局：私も同様に思っていますが、何かしら昆虫に負担もかかりますので、昆虫の体と相談しつつ実施していきたいと思います。一昨年はその昆虫を持ってこられる方がコロナに罹患されて、途中で生体の展示を中止したこともありました。なるべく無理のないように開催したい。まだ実績としては2回の実施ですが、これを楽しみにしている子どもたちもいますので、なるべく期待にこたえたいとは考えております。今のところ4日間の予定ですけども、まだ日程調整中ですので、もう少し長い期間で実施できないか検討したいと考えております。

池上委員：資料収集・収蔵庫に関連して、延命化措置によって25年間収蔵可能ということですが、今後も新築や改修の事業計画を目指すという説明でございました。収集した資料に関する資料研究に関して博物館法の第三条第五項でも、資料の専門的技術的研究を行うことが、博物館の事業に位置付けられていますが、例えば収集している資料、生物学の資料であれば、まだ未同定のような資料もおそらくあるのではないかと思います。そういったものをきちっと研究をして分類・命名していくことが、研究としては非常に伝統的な研究になるのですが、博物館の大きな仕事ではないかと思います。こういったことが年間の事業計画の中に位置付けられないのかということと、他の業務が大変忙しいというのが事業計画を見るとわかるのですが、それぞれの学芸員さんの年間のエフォートというか、仕事の配分というか、そういったところまでうまく調整ができているのかということとか、その点お聞かせいただきたい。あと1つは、改正博物館法の登録博物館の手続き、準備など、どのようになっているか教えてください。

事務局：博物館の学芸員である限りは、調査研究をしなければならないことを重々承知しているところですが、なかなか研究活動がはかどっていないというのが現状で、仕事のバランスはあまり良いとは言えない状況だと認識しております。今後、改善に取り組みたいと思います。ありがとうございます。登録博物館ですけども、今現在、準備を進めているところです。具体的ないついつまでにといいことは言えませんが、なるべく早く申請はするつもりでおります。

池上委員：今、収蔵庫の問題って全国的に博物館の課題となっていると思うのですが、その中でなぜ収蔵庫が必要なのか。そこに収蔵されている資料の価値を、きちっと高く高めること、価値を見いだすことが緊急であるということで、そういう研究がないと、そこにあるものは価値が見出されないで、本当に収蔵庫必要なのっていうことになっていくので、やはり収蔵計画とそれから研究っていうのは資料の研究、その両方リンクしているものだと思うので、あわせて進めていかれるといいかなと思います。もちろん、私たちもそうなんですが、マンパワーが足りないということもあると思います。研究に関しても、いろんな共同研究、外部の研究との連携などいろんな方法があると思いますので、そうした形でも進んでいくのではないかと思います。

事務局：ありがとうございます。

会長：収蔵というとなかなか地味な感じが、外部からだとしても、やはり基本的な部分であるという思いをしております。ほかにございませんか。先日、くまもと文学歴史館で、

県庁関係の古文書・文献の展覧会がありまして、確か博物館や永青文庫も協力されたと思います。地味な文献展覧会だからあんまり期待せずに行きましたら、とても面白く、とにかく公務員なりたての明治に入ってすぐの人たちが、行政資料が西南の役からそれこそ神風連の変の時代も含め、一生懸命それらを守ろう、記録しようとし熱い思いが感じられました。県立図書館の職員の方々がこれらを解読して研究されたということで、とても新鮮でした。文書館については、熊本には無く、他の県・市にはたくさんあります。大分にもありますし、他にもありますし、文書館を作ろうという動きは、私は出自が熊日新聞社ですから、30年ぐらい前も県立美術館の分館になってるところに文書館をとというような動きがあったのを記憶していますが、そのまま立ち消えになった。だから、貴重な文書がいろいろ分散している。特に熊本地震のあと、民間や元武家のところから文書がたくさん出てこれをどうするかということもありました。先ほど収蔵庫の話がありましたけど、こうした文書館のこともきちんと考えていく必要があると思っています。

館 長：会長、ご意見ありがとうございます。熊本市としまして、公文書館を作る、ということが決定しております。植木の田原坂の近くに立地場所が決まっております、総務局総務課が担当しております。既に竣工年も設定してあったと思いますが、基本計画や基本設計を経て、近い将来に公文書館が建設される予定です。総務課の中にはもうこの公文書館を作るための専門の職員がすでに配置されております。市指定文化財の河内町役場の文書など貴重なものが多くございますので、そういったものをまとめて一括して収蔵し、市民の皆様にご覧いただけるような施設になるかとは思っています。以上でございます。

会 長：時期的な目途があるのでしょうか。

館 長：総務委員会の中で、昨年一昨年に、スケジュールも用地選定も含めて、かなり集中して議論がなされておりますので、今は建設に向かって、スケジュールに乗って着実に進んでいるという状況と聞いております。

会 長：知りませんでした。田島委員の教育市民委員会のところでしょうか。

田島委員：総務委員会になります。

会 長：ありがとうございます。ほかにありますか。

鶴嶋委員：ここで古文書の話が出ましたので、ちょっと状況をお尋ねしたいと思います。城南の塚原歴史民俗資料館で、古文書講座を随分長いこと実施されてると思いますが、受講生の人数と受講者の年代についてお尋ねします。毎年募集されてると思うんですが、年10回ということで、固定しているのか、新しい方たちも入ってきているのか。なぜ聞くかというと、今、古文書は基本的に市民の裾野を広げるのが一番なので、もし定員外になった抽選とかそういうことになってるのか、基本的に博物館活動の中で城南の方でやっているだけでいいのか。そういうところを少しお尋ねしたいと思います。

事務局：ちょっと城南担当のものが、体調不良で今日ここにおりませんので、私が聞いている範囲でお答えいたしますけども、新規に毎年人を募集していますが、やはりリピーターが多いそうです。年代に関してはですねやっぱり年配の方が非常に多い。あとこちらでも

同じですね。非常に年配の方が多くて、リピーター率も高いといったことまでは聞いております。

鶴嶋委員：定員何人ぐらいになりますかね。20人とか30人とかそのくらいですかね。

事務局：はい、30人くらいだったと思います。

事務局：昨年度の実績でいいますと、古文書講座の方が毎回、25～30名程度参加されています。それから考古学講座の方は、20名前後。20～25名ぐらいの間で参加されています。

鶴嶋委員：これは何曜日の時間帯は何時ですか。

事務局：日付だけは記録が館報に掲載されておりますが、曜日については土曜とか日曜とかが多かったと思います。

鶴嶋委員：経験上で、平日昼間だとすれば年配者しかおりません。負担が出てきますけど、土曜・日曜の昼間にするとか、あるいは夜間にするとか、そういう方法もあるのかなと思います。社会教育の一環ですので、ぜひそういう取り組みもあっていいのかなと思います。

事務局：いま確認しましたが、塚原の考古学講座に関しては土日の実施となっております。

会長：他にないようでしたら、議題の1番目の事業計画について論議を終わろうかと思えます。これをもちまして7年度の事業計画について質疑終わります。続きまして、「その他」について事務局から何かあればお願いします。

事務局：その他、事務局からは特にございません。

会長：はい。私からのPRになります。私は島田美術館に在籍しておりますが、先ほど話が出ましたが刀剣・同田貫展では博物館と連携開催となり、入館者数は増え、刀剣好きの方が多いなという実感でした。それから、熊本博物館にて浮世絵の展覧会を実施されますが、島田美術館でも4月から浮世絵の展覧会を実施する予定でおります。ぜひ、観に来ていただければと思っております。では、マイクをお返しします。

事務局：議長を務めていただきました松下会長はじめ、各委員の皆様には長時間にわたってご審議いただき、ありがとうございました。以上をもちまして、令和6年度第2回熊本博物館協議会を閉会させていただきます。本日は誠にありがとうございました。